

◆競技運営に関する注意事項

1. ベンチ入りの人数
 - 監督 30・コーチ 28・コーチ 29 (ユニフォーム着用)
 - 選手 10 名以上 20 名以内 (背番号は 0～99・主将は 10 番)
 - 試合時の人数について、試合開始時及び試合終了時には 9 名以上いなくてはならない
 - チーム責任者・マネージャー・スコアラー、但し、ユニフォームおよび審判服 (スラックスを除く) でのベンチ入りは不可とする
 - 夏場の選手保護のために父母のベンチ入りを 2 名を限度として許可することがある
 - 学童大会において守備の時間が長い場合 (20 分を目安) 健康維持を考慮して、本部、審判員の判断で給水タイムを設けることとする。(足少連はロスタイムはとらない。)
 2. 試合開始 30 分前に集合しメンバー表を本部に提出・照合を受ける
 - 30 分前に来られないときには該当グラウンド本部に連絡を入れる。(ペナルティーを課す場合がある。)
 - 30 分前に監督、キャプテンにて、先攻後攻を決める。(不在の場合は代理をたてる。)
 - ベンチは組合せ番号の若い方を一塁側とする。
 - グラウンドルールの説明を受ける
 - 記載に間違いのないよう十分確認すること (特に氏名、背番号)
 3. 試合前の練習等において、30・28・29 の登録された監督・コーチのみがグラウンド内には入ることができる。また、ユニフォームを着た監督・コーチはすべて練習に参加できる。
 4. 試合開始前 (グラウンドの準備中) の投手の投球練習はベンチ前で行わない。コーチャーズボックスより外野寄りで行う。また捕手はマスクを含み装具を着用する
 5. ユニフォームのロングパンツは禁止とする (選手も監督・コーチも)
 6. スパイクの色は監督コーチを含み別々の色でもよい (学童、少年)
 - 学童部の試合に限り運動靴でも認めるが、金属スパイクは使用できない
 7. 試合中むやみにベンチを離れグラウンドの外に出ないこと
 - 許可なく離れた場合、再びベンチに戻ることはできない
 8. 監督・コーチのサングラスの着用は可とするが、以下のことに注意すること
選手の着用は認めない
 - ファッショングラス、ミラータイプの物は不可
 - 選手交代・抗議等の際は外すこと
 - 帽子のつばの上に載せていることは認めない、装着しないのであれば保管する
 9. 試合中にプレイの邪魔をするような声を発してはいけない
 - ベンチ内からの声だけでなく、応援席からの声も同様とする
 10. 自チーム、相手チーム問わず選手に対する暴力・罵声・暴言は慎まなければならない
 11. 原則グラウンド内は禁煙である
 - 各グラウンドの管理による喫煙場所がある場合は、そのグラウンド責任者の指示に従って喫煙できる場合がある
 - 試合中は喫煙することは許されない
 12. 抗議ができるのは、監督と当該プレイヤーのみ
 - 但し、アウト・セーフ・フェア・ファウルボール・ストライク・ボール等の判定に対する抗議は認めない
 13. 審判の判定を惑わせたり、妨げるような声を発してはならない
 14. ベンチ内での携帯電話・携帯マイクの使用を禁止する。また、メガホンは 1 個に限り使用を認める
- ※ 競技上の注意事項
15. 捕手のファウルカップ着用の義務化 (少年・学童とも)
 - 審判員は口頭で着用の有無を確認する
 16. イニングの初め (投球練習後) に声を掛け合う際に、捕手はホームベースの前には出てはいけない
 17. 前の回の最終打者が捕手で投手の準備投球に間に合わない場合は、控え選手が代わって投球を受けることができる (監督・コーチはできない) が、最低マスクを装着しなければならない (控え捕手がいる場合、装具を装着して待機する)
 - この際、正捕手の準備ができるまで代わりの捕手を座らせたまま準備投球をさせるが、投球数については制限しない (正捕手は速やかに準備しなければならない)
 18. 打者は打者席に入った後、打撃完了までむやみに打者席から出てはならない (サインを見るのは打者席内で行う)
 19. 投手は打者が打者席にいて準備ができているのを確認してから投球を開始する
 20. イニングの合間の投球練習中に控え選手がファウルライン際に並ぶことはできない (ベンチ前は可とする)
 21. 試合中むやみにベンチから出てはいけない

22. 試合前の整列・相互の礼をした後はグラウンド内で素振りはできない

23. **試合終了後両チームでグラウンド整備を行う**

24. タイムの制限

◆守備側のタイム

- 捕手を含む内野手が1試合（7イニング）に投手のところへ行ける回数を3回以内とする。なお、特別延長戦となった場合は、2イニングに1回行くことができる
- 上記選手のタイム中に監督が投手のところへ行けば、選手のタイムと合わせて監督のタイムとしてもカウントされる。
- 攻撃側が作戦指示のためにタイムを取り、打者および塁上の選手を集めた際に守備側の選手が集まるか監督がグラウンド内の選手の所へ行けば守備側のタイムもカウントされる

◆攻撃側のタイム

- 攻撃側監督が作戦を伝えるために、タイムを掛けて選手を呼び寄せることは1試合（7イニング）に3回までとする。なお、特別延長戦となった場合は、2イニングに1回行くことができる
- 守備側の作戦タイムを利用して、攻撃側が打者または塁上の選手を集めて指示した場合、攻撃側のタイムとしてもカウントされる。

◆監督のタイム

- 監督がタイムを掛けて投手の所へ行けるのは、一試合に3回までとする
（特別継続試合は2イニングに1回）

25. 投手の投球制限

一人の投手が一日に投球できる回数は、7イニングまでとする。

投手の投球制限については、肘・肩の障害防止を考慮し、1日7イニングまでとする。但し、特別延長戦に限り2イニングまで認める。

（学童部3年生以下にあっては、1日5イニングまでとする）

投球イニングに端数が生じたときの取り扱いについては、3分の1回（アウト一つ）未満の場合であっても、1イニング投球したものとして数える。

	1	2	3	4	5	6	7	特別継続試合		可・不可
ア	A投手	A投手	A投手	A投手	A投手	A投手	A投手	A投手	A投手	○
イ	A投手	A投手	A投手	B投手	B投手	B投手	C投手	B投手	B投手	×
ウ	A投手	A投手	A投手	A投手	A投手	B投手	B投手	C投手	C投手	○

特別延長になった場合に投球することのできる投手の条件（以下『延長の条件』という）

- ① : 7回終了時点（7回の第三アウト時）（以下『終了時』という）に投球していた投手（7イニングを投球した投手も含む）
- ② : 終了時において他の守備位置についていた野手のうち一度も投球をしていない選手
- ③ : 終了時以前において試合に出場していない選手

※解釈

（ア）：延長の条件の①に該当するため7イニングを投球しているが投球することができる

（イ）：延長の条件②に該当しないため投球が3イニングであっても投球することはできない

（ウ）：延長の条件②または③に該当するため投球することができる

※審判員に関して

- 派遣審判員、チーム審判員は所定の時間に本部に集合し支持を仰ぐ
第1試合開始1時間前、第2試合以降は30分前に集合して本部にて待機する
(後審に入る場合は該当試合前に本部に連絡する)
- 審判帽子、グレースラックス、上着(紺か黒又は地味な色のもの)、黒色の靴、黒又は紺色の靴下を着用する
- チームジャンパー、時計、リストバンド、マスクは不可とする
- 控え審判員も審判員と同様の服装を着用する

※その他

- ベンチ内でのカメラ及びビデオの撮影、携帯電話、パソコン等の使用は禁止とする
- チーム旗、横断幕はグラウンド内の掲示を禁止する
- バックネット裏の観戦は禁止とする。(一般人を除く)ただし、ビデオ設置は可とする
- 観覧席があるときは指定の場所で観戦する

平成 26 年 4 月 27 日 制定

平成 29 年 1 月 19 日 追加一部改訂